

日常の組合員の声を受けて事業や活動に活かしていくこと

組合員コールセンターへの声や「わたしもひとことカード」「組合員の声カード」、総代会関連会議などを通して、日常的にたくさんの組合員の声をいただいています。この声にも基づいて実施したこともたくさんありますが、2022年度事業や活動の中で実施していくことや中・長期的に検討を重ねることが必要なこともあります。

出された意見や声に対しての受け止めや課題認識、その方向性については理事会の分野別の各小委員会で協議・検討を行い、今後ホームページ、SNSや店舗掲示板、宅配の広報物など様々な媒体を通じて情報提供を行っていきます。発信する広報物について必ずご覧ください。

2021年度、寄せられた様々な組合員の声に対して「2022年度内にすすめること」「長中期的な検討が必要なこと」を2022年度活動計画にある6つのテーマごとに整理しましたので、ご確認ください。

1. 「食」の大切さを考えよう！

1) 2022年度内にすすめること

①産地からの直接の声を届けるオンラインやリアルにつながる企画の実施

遠方で行きにくい産地や行く時間のない組合員でも産地とつながれるオンラインでの企画だけでなく、リアル開催も実施し参加形態の選択が出来るように取り組んでいきます。

②商品のモノ情報と共にコト情報や生産者の想いを伝える

つながる商品交流会や「コブでつながる！エエやん！」の取り組みを通じて、組合員が商品の特徴や安全安心な情報だけでなく、その商品の使い勝手、暮らしの中での活かし方を知ることができ、生産者が想いについて語れ、組合員と生産者が交流を図れる場の開催をすすめていきます。

③商品学習に際して

商品についての学習は、幅広い世代に対し、掲げるテーマやコンセプトがより伝わりやすい内容や手法をイメージして企画検討します。また、家族で参加できる企画には、実際に体験できることやライブ感が感じられる要素を取り入れ、学んだことが印象に残ることを大切にしています。

④ファーマーチャレンジに関すること

ファーマーチャレンジは、組合員が農作業の体験を通じて農業への関心を高めることや、交流を通じて農家の生産意欲の向上につなげるとともに、※援農や就農のきっかけにつなげていけるようめざして取り組みをすすめます。

※援農とは、農家ではない人が農家の仕事を手伝うことです。例えば、農家の高齢化や後継者不足などの事情により、農作業の人手が不足する際にボランティアとして農作業をお手伝いすることをいいます。

⑤「たべる*たいせつ」を楽しく学べる商品企画を検討します

家庭で子どもと一緒に料理したり、お菓子づくりにチャレンジすることは、楽しいひと時となるだけでなく、子どもにとって「食」に関する知識や「食」を選択する力が身につく貴重な経験です。そんな「たべる*たいせつ」を楽しく学べる「夏休み おうちで手作りセット」などの企画を検討し、親子で「食育を学べる」体験を提供します。

2) 中・長期的検討が必要なこと

①食と農をつなぐ取り組みについて

これまでのファーマーチャレンジの取り組みでは、農作業の体験を通じて農作物や農業への関心を高めることにつながっています。今後に向けては、さらに農作業の体験が援農や就農のきっかけにつながるよう、農作業のサポート活動ができる場を検討します。

2. 「宅配がある暮らし」をもっと楽しもう！

1) 2022年度内にすすめること

①組合員が安心して利用できる環境づくり

いつもの組合員担当が配達に伺えない場合も約束した通り商品をお届けできるよう、組合員一人ひとりの引継ぎを確実におこないます。また定期的な添乗教育を行い、職員の育成に取り組むことで同じ組合員担当が長く担当でき、組合員が安心して利用し続けられる環境づくりをすすめます。

②コープしがアプリの改善、案内、追加開発

配達時間の目安がわかるコープしがアプリを2022年3月7日にリリースしました。約束した時間通りに配達に伺うことを基本としながら、アプリ上で必要な情報を受け取れるなど、活用されている組合員の声を聴きながら部署間での連携や機能改善、追加開発をすすめより暮らしに活用できるアプリに進化させていきます。

③コープしがの様々なサービスの広報強化

宅配でのサービスだけでなく、暮らしに役立つ取り組みや活動をチラシやWeb、SNSなどで組合員にとってわかりやすい広報が展開できるよう取り組みをすすめ、組合員が感じた生協の良さを組合員自身が気軽に発信できるよう工夫や呼びかけをおこないます。

④普段お会いできない組合員への情報発信の工夫改善

すべての組合員に情報が行き渡るよう、コープスタジオを活用した動画作成や組合員が見てわかる広報の工夫をおこない、普段お会いできない組合員も生協活動や取り組みに積極的に参加できるよう情報発信の工夫改善をおこないます。

⑤組合員や県民へ向けたコロナウイルス対応の周知

新型コロナウイルスの収束が見えない中、宅配では不織布マスクの着用、手指のこまめな消毒、昼休憩時の黙食など基本対策を継続しています。引き続き組合員が安心して利用でき、また職員が安全に業務を行えるよう、宅配での考え方や対応について定期的にお知らせを行うことで宅配事業の役立ちを継続します。

⑥環境への取り組み強化

環境への負荷低減のために、現在実施している商品案内書やたまごパック、牛乳パックのリサイクル回収のお知らせを積極的におこない、組合員自身が宅配利用を通じて環境への取り組みに参加できるようお知らせを強化します。

⑦くらしの基礎商品の魅力や特長、生産のコト情報の提供強化

「米・たまご・牛乳」は毎日の食生活を支える大切な基礎商品だからこそ、それぞれが出来るまでの流れや商品の魅力や特徴、生産者の想いを紙面で広めるとともに、職員も学びながら配達を通じて組合員にしっかり伝えていきます。また、環境に配慮した生産や日本の食料自給率引き上げに繋がる取り組み、持続可能な農業・畜産業を目指した取り組みなども情報提供し、商品の利用が地域貢献・社会貢献に繋がっていることも広めていきます。

⑧産直商品をはじめとした生協農産品の良さや考え方の周知と拡大

「産直」は「安全で安心な食品を食べたい」という組合員の願いを実現するために、「安全・安心」「よりよい品質」「適正な価格」での「安定供給」、組合員と生産者の「顔が見える関係」など、生産者と生協が直接手を結んだ産地直結の取り組みです。「産直」をはじめとして、生協農産品で大切にしていることや商品の良さ、考え方について、紙面やWEB、動画、生産者につながる学習会などで分かりやすく広めていきます。

2) 中・長期的検討が必要なこと

①自動お届け商品のラインナップ拡大検討

自動お届け商品は、商品を探す手間を省ける“便利さ”や注文忘れがなく確実に商品が届く“安心さ”が好評です。その自動お届け商品に2月4回からはトイレットペーパー・ティッシュなどの雑貨商品も仲間入りしました。今後も毎日食べるもの、無くなると困る“くらしに必要なもの”を自動お届け商品に加えられるよう、ラインナップの拡大を目指していきます。

②夕食サポート事業のサービス拡大

高齢化や買い物困難者が増え、毎日の食事へのニーズは、ますます高まっていくと思われます。現在のところ朝食や昼食の製造や、そのお届けをどのようにしていくのかの問題や課題があり、すぐに実現することができません。夕食づくりに困っておられる方を幅広くサポートしていく中で、朝食や昼食への要望をどのように解決していくのかの調査を行い、夕食サポートでも毎日の食事へのお困りに応えられるよう検討します。

③宅配のサービスや手数料の見直し

個配の手数料や宅配でおこなっているサービス、またグループ、個配、ステーション利用のあり方についても、現状の組合員や県民のくらしを観ながら検証をおこない、誰もがいつまでも利用し続けられる宅配事業構築に向けた検討を行います。

④職員の定着化に向けた取り組み

仕事の効率化や見直し、組合員担当の負担軽減を継続的にすすめるとともに、組合員へ協力をお願いしながら時間内に業務が終えられるよう取り組みをすすめます。また職員がやりがいを感じ未来に向かっていつまでも働き続けたいと感じられるよう、生協について学ぶことをすすめる職員の育成に取り組んでいきます。

3. 「お店があるくらし」をもっと楽しもう！

1) 2022年度内にすすめること

①季節にあった動画を活用したメニュー提案の強化

お店で案内しているレシピを参考に買い物をしているとの声も多く、全店で料理レシピ配信システムの入替を行い、より豊富な料理レシピを紹介する事が可能となりました。コープのお店に行けば、ご家庭での料理に活かしてもらえるような献立メニューをたくさん動画配信すると共に、レシピも持ち帰れるように用意していますのでぜひ利用ください。

②商品の安全・安心な情報提供の見直し

コープ商品をはじめ各種メーカーの商品は「食品表示法」のもと情報の提供を行っています。表示方法を変更することはできませんが、安全・安心な商品を利用してもらうために、コープ商品では、国が定める添加物基準より厳しいチェックを行い工場での製造方法や内容物について徹底した管理をしています。食の安全などの情報は店舗のデジタルサイネージ(レジ待ち上のディスプレイ動画)などでより安心して利用してもらえるよう情報提供を強化します。

③財布にも環境にもやさしい取り組み

今年度より、トマトバイキングのプラスチック容器をリユース（繰り返し使う）してもらおうと容器代の10円を値引きする取り組みを始めました。また、その他にノントレー商品の導入や、バイオマス（微生物の力を借りて分解される）を使った買い物袋の使用、レジでの過剰包装を極力制限する事など環境にやさしい取り組みをすすめていきます。また、組合員からも意見を寄せて頂き、店舗として可能な限りできることを組合員と一緒にすすめていきます。

④お店の「お届け便サービス」のお知らせの強化

取り組み内容について店内放送やポスター掲示、パンフレットを店頭で配布の他、ながはま店ではチラシ裏面での紹介や、DM発送、地域へのポスティングを行なっています。また、行政や社協へ訪問し取り組み内容をお伝えするとともに店内ではサービスの見える化として担当職員が専用ビブス（お届け便サービス実施中）を着用し、取り組みをお知らせしていきます。

⑤「お買い物サポートカー」の展開

来店の手段に困っている組合員をサポートするために全店舗でお買い物サポートカーをスタートしています。現在1回の乗車で最大5-6名の方がご利用いただいています。大型バスの導入などの声も頂いていますが、現状ある資源の中でより多くの方にご利用いただけるよう当面は、1日あたりの便数やサポート日数を増やし対応していきます。

2) 中・長期的検討が必要なこと

①子育ておうえんパスやその他カード類のデジタル化

各カード類がいっぱいあり財布に入らない、持ってくるのを忘れるなどの声をいただいています。現在、組合員証のスマホ化やレシートレスについて、可能となるようにすすめています。また、子育ておうえんパス、ビンゴプロモーションなどについても、すでに宅配で配達時間のお知らせとして稼働している「コープしがアプリ」に搭載でできる仕組みづくりを検討していきます。

②各地域での出店要望について

店舗事業政策の出店の考え方に基づき、日常的に県下全域での候補地調査を進め、周辺の世帯数や組合員組織率、他店の状況、候補地へのアクセスなどを判断材料として慎重に精査して決定していきます。上記のプロセスを経て、仮に店舗出店基準などに見合う土地などがあれば、取得ができるよう年度ごとでの店舗出店に向けた投資枠を設けています。

③循環型社会に向けた取り組み

2022年4月よりスプーン、フォークなどのカトラリー製品については、有料で販売する方法に切り替えています。プラスチック容器につきましては、代用容器のコスト、耐久性などを鑑みながら、切り替えが可能な品目については段階的にノントレーや紙製容器への切り替えをすすめていきます。2021年度には、コープしがでのCO2排出量40%削減に向けたロードマップを作成しました。店舗ではフードロスの削減やリサイクル資源の回収、環境に配慮した包材などへの変更も合わせて、循環型社会に向けた取り組みをすすめます。

④社会問題にも敏感に対応できるお店へ

店舗での買い物をすると同時に様々な社会問題や課題、情勢なども考えてもらえるのが生協のお店です。「生理の貧困」も社会問題の一つとして、トイレにナプキンを常備置きすることの検討だけでなく、本質的な課題を考えてもらえるためには何が必要なのかを検討していきます。

4. 暮らしの備えと「おたがいさま」を考えよう！

1) 2022年度内にすすめること

①災害に備えられるよう、防災用品やローリングストック企画検討

年々、地震や集中豪雨などの異常気象や新たな病気の蔓延などの予期せぬ災害が増えており、くらしを守る防災用品やローリングストックへの関心とニーズが高まっています。組合員の防災意識が高まり、いつも災害に備えられるよう、防災用品やローリングストック商品を定期的に企画できないか、検討していきます。

②ジュニアコース満期延長や学生総合共済の案内

ジュニアコース満期 30 歳までの延長や CO・OP 学生総合共済、新社会人コースの受付スタートなど、共済事業で途切れのない一生涯の保障でくらしの役立ちができることを組合員がイメージできるようにお知らせを強化します。

③コープしが介護事業の認知度を高める

ぼこ野洲近隣地域へのポスティングと、介護事業業務エリア内組合員へ宅配事業センターやコープもりやま店での介護相談会チラシの手配りを行い、コープしがの介護事業の認知度を高めていきます。組合員のみなさんもぜひ知り合いの方に相談会への声掛けなど口コミで広げてもらえればと思います。

④介護についての学習会や相談会を組合員向けに開催

「介護に困らないために」のテーマで組合員向け学習会を開催していきます。このテーマ以外にも予防についての学習会メニューの作成をすすめます。また、組合員向けの介護相談会を実施し、現在の困りごとや将来の心配ごとへの学びと相談の場を設けていきます。

⑤地域や組合員にとって必要とされる介護事業へ

地域から信頼される事業所をめざし、ぼこ野洲の「仕事をすすめる上で大切にすること」の実践と事例共有を、毎週の運営会議やヘルパー会議、ケア会議などで個々利用者の想いを受け止め、それに伴うスキルの向上を行い介護事業の拡大をすすめながら、今後の介護事業の展開につなげていきます。また、訪問介護ではヘルパー研修やサービス提供責任者と同行訪問してヘルパーのスキル向上にも取り組んでいきます。

⑥ささえあいサポートの活動内容提供による利用者拡大

コープしがホームページなどで活動内容を発信し、サポーターの声、利用者の声を発信します。具体的にはホームページに活動写真を掲載し、SNS での活動紹介や機関会議や学習会、スパイラルの案内など、様々な広報媒体を通して目に触れる機会を増加させ、利用の拡大につながる発信と内容の強化をすすめます。

⑦ささえあいサポーターの担い手づくり

剪定など担い手が少ない活動や屋外作業をされているささえあいサポーターの技術や知識を組合員同士が教えあう機会や、ささえあい活動のサポーターのおためし体験を通して、サポートする際の不安を解消し、勇気を持って踏み出す機会や技術・知識の習得機会を検討します。合わせてささえあいサポートの目的を明確に理解してもらう機会についてもささえあいサポーター会などで具体化を検討します。

⑧ささえあいサポート運営改善

ささえあいサポート活動について、ささえあいコーディネーター、サポーター、地区事務局の協議会を定期開催し課題解決に向けた話し合いをすすめます。同時に地区を超えて助け合えることを共有しながら、コープしが全体としての現在の到達点や課題認識、問題解決や他の地区の取り組みなどについて協議する全体交流会を開催していきます。また、組合員活動と地区業務の仕分けと整理、役割分担や事務局の関わり方やフォロー体制なども検討していきます。

2) 中・長期的検討が必要なこと

①高齢者のくらしのサポートや介護ケアサービスなどへの幅広い対応について

現在の訪問介護と居宅介護支援事業の安定と事業拡大をすすめています。同時に訪問介護、居宅介護支援事業以外の事業展開の調査研究を行う中で、コープしがの今後の介護事業展開を検討協議していきます。

5. くらしをよくし、誰かの「笑顔につながるコト」をはじめよう！

1) 2022年度内にすすめること

①商品の利用を通じての社会貢献などの情報提供の強化

「直接募金や寄付はなかなかできないけど、自分にできることを少しずつしたい」「商品の利用を通して地域や社会に貢献できたらいいな」などの声をいただいています。それらの声は「良くなって欲しい」「笑顔になってほしい」と願う気持ちや希望であり、また支援の成果を知ることによってうれしさや私も役立っているという実感につながります。募金や寄付、利用することで地域や社会に貢献できる商品の利用が、どれだけ役立っているかを紙面やWEB、お届け票などに掲載することで情報提供し、より多くの組合員の理解がすすみ参加者が増えていくことをめざしていきます。

②「私や私たちができることづくり」のきっかけへの支援

困っている人に何かしたいとみんな思っていますが、自分に何ができるのか不安で、思っても一歩を踏み出せないことが多くあります。そのような同じ思いを持った多くの人と共感したり、交流したりすることをきっかけに、私や私たちの「できるコト」につながるようなサポートに取り組めます。

③いのち*たいせつ関連

募金活動への参加については、宅配のOCR注文書に通年ユニセフ募金に参加いただける募金欄を設けています。また、eフレンズでは専用の6桁番号と募金額の入力をもって募金をして頂けるようになっていきます。募金の活用先について、可能な限り詳細な情報をスパイラルやホームページ、SNSなどを通じて、いち早くお知らせできるようにします。

④びわこ*たいせつ関連

コープしが環境政策で掲げる4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の活動に関しては、店舗でのお知らせや様々な広報物を通じて定期的にお知らせして、組合員みんなの関心事として取り組めるようにすすめます。また、びわこ清掃ウォークの活動をはじめとした琵琶湖に親しむ体験活動や、食を通じて琵琶湖の環境を考える機会などを検討していきます。

⑤くらし*たいせつ関連

フードドライブの取り組みは、2020年12月に開始し、組合員からの寄付商品や宅配の在庫商品などを合わせ提供商品は増加してきています。今後は、①寄付先を増やす②全体の回収量を増やす③回収アイテムを増やす、ことに視点をおいて取り組みます。さらに多くの組合員にコープしがのフードドライブの活動や、それぞれの地域で行われているフードドライブの取り組みを知らせていきます。

東日本大震災被災地支援は、2021年に10年の節目となりましたが、まだまだ被災地では様々な問題が山積しており「震災を風化させない」をテーマにおいて、①知ること②知らせること③つながること④応援すること、についてこれまでの活動の振り返りや現状をふまえた取り組みを検討していきます。

⑥ちいき*たいせつ関連

子ども食堂の取り組みは、フードドライブとも連携し必要な商品が必要とされる場へ届くよう、社会福祉協議会や地域の活動諸団体からの情報などをもとに組合員への情報発信や寄付先の拡大を検討していきます。

キッチンカー健康教室は、①健康寿命について②フレイルについて③野菜の話A④野菜の話B、これら4つのプログラムを通じて、個々の健康づくりと地域のコミュニティの場づくりに活かして頂けるよう、自治体や地域の諸団体に訪問を行うなどして活動を知らせることをあわせてすすめます。

2) 中・長期的検討が必要なこと

①プラスチック使用量の削減

プラスチックの削減や海洋を汚染するマイクロプラスチック問題への関心が、世界中で高まっています。これまでコープしがではプラスチックごみの削減や、環境負荷の少ない商品の取り扱い、宅配・店舗にてリユース・リサイクルの取り組みを進めてきました。

プラスチックは便利で安全なものゆえに、私たちの身のまわりのさまざまな物に、多くの使われています。使用削減とともに、使い終わったプラスチックをどう適切に処理するかということも重要なことです。今後の持続可能な社会の実現に向けて、日本生協連やコープきんきとともにプラスチック課題を協同で取り組んでいきます。また、私たち一人ひとりの消費行動が地球環境に影響を及ぼし得ることを自覚して、意識やライフスタイルを転換していくことが不可欠となっています。この課題を組合員とともに考え進めていくための広報・情報提供を継続していきます。

②紙資源使用の削減

紙の使用量削減による資源の保護について、現在は紙媒体からデジタル（ペーパーレス化）への移行期であり、紙媒体を必要とする人、デジタルツールを必要とする人がおられる状況です。紙にもデジタルにもそれぞれ特徴があり、その特徴を生かした媒体の使い分けが望まれます。大きな流れとして、タブレット使用やアプリの開発などで紙がデジタルに置き換わり、紙資源の使用量を削減していくことになります。しかし、その中で紙媒体を必要とする人や個々の生活環境がありますので、必要な部分には紙は必要という認識で、中長期的な課題として紙資源の保護について取り組んでいきます。

③プラ包装の今後の方向性

循環型社会に向けて、発生源でごみになるものを断つ（リフューズ）、ごみを出さない（リデュース）、繰り返し使う（リユース）、再生して使う（リサイクル）という4Rの実践が大切です。トータルとしてプラスチックを減らす為に技術の進歩を注視しながら各事業で削減していくこと、目的に合わせた素材の商品開発を進めることで、プラスチック削減に取り組んでいきます。また、プラスチックの適切な廃棄方法やリサイクルの大切さなどの情報発信を進めていきます。

④2030年度に向けたコープしがCO2排出量2013年度比40%削減のロードマップ策定

2030年度CO2排出量2013年度比40%削減目標に向けたロードマップを策定しました。コープしがはCO2排出量削減と共に、自然共生社会や循環型社会に向けて、滋賀県と連携して「しがCO₂ネットゼロムーブメント」への取り組みを開始しています。この取り組みとともに一人ひとりが出来るところから一歩を踏み出すことが多様で豊かな滋賀の環境を未来に引き継ぐことにつながります。

学習や体験、さまざまな学びの場への組合員の参加を広め、取り組みをすすめていきますのでご協力をお願いします。

6. 「ありがとう」のコトバでつながる生協

1) 2022年度内にすすめること

①組合員活動や総代会関連会議での情報提供と提供方法

くらしや活動、各々の役割発揮や活動に役立つ情報提供やコミュニケーションツールとして、従来の情報提供に加えて、組合員との双方向のコミュニケーションを強化し、組合員同士や生協とのつながりを支援します。「組合員の想いをかたちにつなげること」をめざす運営方針の具体化のひとつとして、活動組合員や総代へのタブレット貸与を行い、多様な情報を提供し協同組合やコープしがについてより深く広い理解や認知をすすめる、生協への参加・参画がより広がることをめざします。加えて紙資料に代わるデータ提供など効率と環境に配慮した取り組みをすすめています。

②SNSを活用した情報提供と様々な媒体を通じた情報提供の強化

あらたな SNS の発信(L I N E)による募集や報告などの情報提供を強化し、同一内容を様々な媒体を通じて重層的に発信することで、より多くの組合員に伝わることを推進していきます。

③くらしの関心ごとからのまなびへ

くらしや家庭の中での関心ごとや興味に基づく地域委員会の疑問やテーマをかたちにするため、活動へのサポートを強化してすすめていきます。

④組合員活動の実施後の組合員の声のお知らせ強化

組合員活動を通じた声や参加して良かったこと、くらしの中で生協を活用している組合員の声を様々な媒体を通じて「組合員の口コミ情報」として発信し、活用してもらえるよう広報を工夫していきます。参加された組合員は、回りの方にも口コミで伝えて仲間を増やしていきましょう。

⑤オンライン活用などに対応しきれない組合員のフォローや交流の場づくり

生協の事業や活動をくらしの中にうまく取り入れて、より便利に活用してもらえるためのオンラインの学習会や講習会などの開催をすすめます。従来の時間や場所が限定された会議だけでなく、オンラインを活用し様々なテーマや分野の声を聴き、交流ができる場を一緒に検討していきます。また、組合員同士がオンラインなどの活用を教え合える取り組みができないかと考えています。

⑥組合員活動の良さを伝える

組合員活動は、新しい発見や知識の習得など、他の組合員から刺激を受けて前向きな自分育ての場になったり、活動の良さを実感してもらえたりすることが多くあります。この様な組合員活動の良さを、組合員による口コミにより多くの方に伝えて仲間づくりをして頂きたいと思えます。また、組合員の体験した実感の声からより多くの組合員の参加につながるよう媒体の内容を工夫していきます。

2) 中・長期的検討が必要なこと

①組合員の想いを受け止めカタチにすることの実践

組合員の声に基づきくらしに役立つ事業・運営をすすめることが生協の原点であることを、組合員に周知し理解をすすめます。「組合員の想いをかたちにつなげること」をめざす運営方針の取り組みひとつ一つを丁寧にすすめる、組合員が声を発信することで自分のくらしが良くなり、いいでは生協を強めることにつながっていることを実感してもらえるようすすめます。

②組合員活動への参加・参画を広げるために

安全を第一にしながらも積極的な活動が展開できるよう組合員活動のガイドラインを見直し、持続可能な活動ができるよう規定やルールの変更をすすめていきます。また、組合員活動の参加の広がりや内容についても、「どのようにしたらもっと広がるのか、参加が増えるのか」一緒に考えてすすめていきたいと思えます。

③組合員活動の担い手

現在のニーズや暮らしにフィットした組合員活動の枠組みや就業していても組合員活動の担い手として活動できるよう、組合員による視点で規定の見直しについて一緒に考え検討していきます。

④他の団体との連携による取り組み強化

自治体や滋賀県、「コープしができるコトづくり制度」の助成団体、大学生協、大学事業連合との連携など、暮らしの中で密接にかかわっている諸団体との連携を強め、よりよい暮らしづくりのための具体的な取り組みがすすめられるように、カタチにするための話し合いを継続していきます。

以上